

希望 21

ありふれたことだけど
かけがえのない
希望がここにある

People's Hope for 21 century

平和・自治・共生

No.33

1部 200円 年間購読 3000円

神奈川県相模原市上鶴間2973-3-110

TEL & FAX 0427-40-4794

NIFTYserve ID: JAH03412

郵便振替: 00100-1-97125 希望 21



参議院選は 社民党・市民派 候補へ投票を！！

希望21全国委員会

7月12日に参議院選挙が行われます。私たちはこの選挙において、多くの人々とともに、「市民の絆」を軸に一人でも多くの社民党・市民派議員を国会に送り出すべく取り組んでいます。

東京においては、「市民の絆・東京」が候補者岩崎駿介さんの友人たちで構成する「応援する会」と共に市民選対を作り、社民党の総合選対の一部となって選挙戦に取り組んでいます。総合選対の委員長は東京選出の市民派議員・田英夫氏、副委員長に社民党本部ブロック担当役員として、これまた市民派議員の保坂展人議員ら3名。都連副代表3名、市民選対から2名、事務局長は都連幹事長、事務局次長は市民選対からという布陣で、各級レベルの決定に市民選対が参加する共同体制を作っています。こうした選挙体制は、社会党時代にもなかった市民参加の選挙体制として画期的なことです。

こうした市民選対は、東京だけでなく、大阪でも「市民の絆・大阪」の共同代表である長崎由美子氏が社民党公認候補となり、市民選対をたちあげたり、神奈川でも阿部ともこ候補の市民選対に「市民の絆・神奈川」準備会の仲間が事務局長として参加するなど「市民の絆」を軸とした選挙体制が生まれています。

この一年、社民党は市民政党へと一つ一つ脱皮してきました。一月の党大会で社会党時代の基本政策変更

を抜本的に総括することを含めた21世紀ビジョン、新方針を出し、市民派議員を多く登用する人事を行いました。また閣内与党の立場にありながらも、佐藤孝行の罷免要求や周辺有事関連法案、組対法案（盗聴法案）、政治倫理法案、労基法案などで一定の歯止めの役割を果たしてきました。

しかし与党離脱にあたっては、民主党などの内閣不信任案に対し、「連立政治のルールと責任を回避しない」と反対の立場をとり、与党離脱の意味を不鮮明にする結果を招くなど、まだまだ党内市民派政治路線のイニシアチブが発揮しきれない現状を抱えています。しかし、一方で「市民の絆」形成に取り組んできた保坂展人氏や辻元清美氏、中川智子氏らは裁決を棄権するなど断固とした姿勢を示しました。

社民党はいま、沖縄の米軍基地問題や安保問題、沖縄県知事選を巡って、上原康助前副党首が党を離脱する動きが顕在化するなど、村山政権以降の抜本的総括を含めた市民派への脱皮をめざし、内部問題を自ら切開する段階に来ています。かつて社会党を支え、いまは離れてしまった多くの市民へ新しい政党のあり方、政策内容を問いかける段階を迎えていると言えます。その問いかけの場の一つが参院選挙です。

私たちは、こうした市民政党化への道を歩み始めた社民党を、「市民の絆」を通じて積極的に応援しま

す。それは、社民党が変わることが、いまの誰もが責任をとろうとしない、なし崩しの憲法改悪、民主主義不在の政治を市民の力で変えうる転換点としようとするからです。私たちは、評論家的に社民党の現状を批判するのではなく、市民の政治への回路を開くも

のとしての社民党を支えることを引き受け、人々と共に変えていく力を創り出したい。私たち一人一人が、この現状をどう変えていくのかという主体的な立場に立ち、現状を変える政治選択として参院選挙に、社民党・市民派候補への投票を強く訴えます。

選挙を考える

問われているのは政治の中身・手法

希望21 尼崎 田中 寿男

多くの人々は、数年来の右往左往する政界の再編過程を、冷やかに、あるいはほとんど無関心で見向きもしていない、というのが現実ではないでしょうか。それは、選挙によって選ばれた議員たちが、人々から遊離しているということです。

社会から遊離している議員達によって、政権を取るために、政党の再編、再々編が延々と繰り返されても、ますます白けるというのは、極自然なことです。こうした議員たちが構成している政党によって、日本の社会は支配されています。これが日本の政治の姿なので、政治離れも進むというものです。

政治が人々から遊離しているのです。投票には、義務だとか権利だとか言われながら行われる1回の選挙に、どれぐらいの費用が税金から費やされるのでしょうか。選ばれた議員たちに支払われる税金は、いかほどのものになるのでしょうか。かつて、議会制民主主義ナンセンスと叫ばれたこともあります。問われていることは、政治の中身や手法にほかなりません。

民意を示す表現の一つとして、選挙があります。膨大な不投票は、それ自身大きな民意です。選挙が政治表現の一つの結果を表しているものであるとしても、今やそれは、大きな陥没を孕んだ、一つの愚挙ともいえるものになっていることも、自覚しておく必要があるのではないのでしょうか。そもそも政治とは何なのか、どうあるべきなのかを、今一度考えてみることに意味があるのではないのでしょうか。

政治が支配力を巡るシステムでしかないのであれば、所詮は支配されるための選挙になどいかな、という感性の方が支持できます。私たちは何時までも、好き放題に、支配されるがままに身を任せるわけには行かないのですから、政治のこの乖離を正していく努力を続けたいと思います。

世界の情勢が、インドネシアの学生たちの決起や、インド、パキスタンの核実験・核軍備等、アメリカを

中軸としながら、大きく揺れうねっていると伝えられています。

日本政府はいち早く、邦人救出を煽りながら、自衛隊機の派遣を進めようとしてきました。又、グローバル化の席卷の下で、世界市場への開放（金融ビッグバン）に向け、一方で規制緩和を押し進め、他方で公的資金を導入し、日本経済の再編が図られようとしています。多国籍化した企業による、地球規模での環境の大破壊の進行は、文字通り生活破壊の進行を生み出しつづけています。金融機関の破綻、失業率の増大、不況が言われていますが、これらの「つけ」は、自由な競争主義原理を振りかざし、弱肉強食の世界に拍車を掛ける政治、経済、社会の再編によって、ますます重く、世界の弱者にその負担が押しつけられていきます。日米新ガイドラインの実体化がなし崩し的に強行され、関連法案の成立、有事立法の準備がもくろまれ、侵略体制を支える軍事体制がより一層強化されようとしています。

私たちの微々たる取り組みはもちろんのこと、多くの方が様々な角度から、私たちが住むこの世界の情勢を分析され、警鐘を乱打されていますが、そうした営みが、この国を形作る力とはなりえていない現実をこそ、問いなおす必要があります。

沖縄を先頭に各地での基地撤去の戦いをはじめ、様々に取り組まれている平和のための運動や、環境保護の運動、人権を求める運動等々……について、私たちは、私たちが住む地域でしっかりと人々と話し合い、協同の営みとして「平和・自治・共生」の社会を実現していきたいと考えています。

そうしたものとして、私たちはこの参議院選挙において、「市民の絆」の前進に、それぞれの地域の実情を踏まえながら、精一杯取り組んでいきたいと思えます。



わしらが仕切る！

希望大阪・増田

増税・失業・賃下げ・福祉切り捨て・環境汚染と不安は大きくなる一方だ。こんなに一生懸命に働いてきたのにどうしてひどい目にあわなくてはならないのか？ 世界中の人が買えるよりもはるかに大きな生産能力を持ってしまったのが運の尽き。設備は遊んでいる、人は余っている、行き場のない資金は投機に回されバブルを作りだしたあげく株も土地も値下がりで大損だ。資本が増えすぎてどうにもなくなっているのだ。資本を減らすには大倒産と赤字しかない。当然市場は一層ちぢこまる。すると、またさらに過剰資本になってしまう。この悪循環がどこまで行ったら止まるのか、だれにもわからない。経済が全く崩壊してしまう。それが恐いので赤字だろうがなんだろうが政府は財政出動を繰り返す。爆発する火薬の量を次第に増やすことになるのだが、どうにもやめられない。いつかは絶対破綻する。

ジャイアントインパクトが近づいている

世界経済は行き詰まっている。だが、まだ崩壊はしていない。アメリカ好景気が世界を支えている。ところがこのアメリカがバブルにはまりこんでいるのだ。ここ二年間でアメリカの株は倍以上に暴騰した。しかしアメリカの経済が倍の力をもったわけではない。アメリカはとんでもない借金大国なのだ。株価と実力のアンバランスは次第に臨界点に近づいている。経済アナリストからは不安の声があがっている。アメリカの株価の暴落が世界の経済の崩壊の引き金になる。巨大な経済の破壊衝撃が襲ってくる。ジャイアントインパクトだ。日本もアジアもヨーロッパもこの崩壊をくい止める力は残っていない。戦後という長い経済サイクルの輪が閉じようとしているのだ。

第三世界の人々が真先にその地獄にたたきこまれる。次は先進国の労働者階級だ。資本家さえもリストラされる。エゴむきだしの大激突・大戦争に否応なしにかりたてられるのか、それとも……。

もうここまで資本主義システムは行き詰まっている。過剰資本！。どれだけ注意深くこの言葉を資本家達が避けていることか。全てを一部の役人の責任にして時間稼ぎをしていることか。「資本主義はもう終わりだ」と思われたいために政・財・官そしてマスコミ一体となってパフォーマンスに懸命だ。

しかし化けの皮はどんどんはげてきた。役所や議会だけいじくってもどうにもならないぞ。会社が全て「たかが金儲けがすべて」のこの社会システムを根こそぎ変えないと絶対問題は解決しないのだ。だが、それをやるのだ？

この文章を読んでいるあなた、正直に働いて生きている労働者階級なのだ。

世界を救うのは私たち労働者階級だ。

資本というものは儲けることと増殖することを運命づけられている。個々の資本＝会社は儲けを求めて右

往左往するしかない。資本家連中にはこの経済の動きをコントロールすることがさっぱりできない。儲けに走る以外のことはできないのだ。その結果世界は全くなりゆき任せになっている。資本主義世界はその生命力を失いシステム不全に陥っている。このままでは世界を破滅にひきずりこんでしまう。

大不況のなかで人々が自分さえ良ければ、自分の会社さえ良ければ、自分の国さえ良ければと考えだすと、どうなるだろうか？ 弱者は切り捨て、第三世界に矛盾をしわ寄せし、先進国同士で争いを始めることになる。

もうすでにそれは始まっている。私の会社でもどうすればコストダウンできるか朝から晩まで考えている。経営が悪化すればすぐに弱い人、成績の悪い人の首切りを考えてしまう。みんなで一緒に貧乏するとはなかなかかなりにくい。そして、こうした自分さえ良ければいいという行動がますます経済を悪化させていく。どんなに頑張ってもどんなに働いてもこの悪循環からは抜け出せない。世界は過剰生産・過剰資本に苦しんでいるのだ。みんなの働きが足りないわけではないのだ。

では、どうすれば、不況・貧困・飢餓・環境汚染・戦争から世界を救うことができるのか？ それには自分たちで世界を仕切るしかない。偉い人やお金持ちに任せてははどうしようもないのだ。私たち労働者階級こそ世界を仕切る能力がある。政治も経済も自分たちで仕切ること、これを「共産主義」と言う。

マスコミやお偉い文化人達は朝から晩まで「共産主義は失敗した。お前たちにはそんな能力はない」と唱え続けている。たしかにソ連・東欧は崩壊した。その結果ははっきりしたことは自称共産主義者たちが実は単なる利権屋にすぎなかったということだ。今、彼らは資本家になろうと汲々としている。ロシア革命は革命に群がった利権あさりの連中にとこの昔に食い潰されていた。それがめでたくもはっきりしたという事だ。ちょうどフランス革命が利権

本並：その時、政党の支持とか、そういう形で出ようとは思われなかったんですか。

次田：なかったですね。もともと組織というものにあまり縁がなかったですし、言いだしっぺはそれぞれ自分で責任をとって、自分のお金で運動するのが市民運動の大原則だと思っていたから……。一緒にやるのは全然イヤじゃないですけど。

本並：市民運動から議員になられて、今「男女政治参画セミナー」とかも主催されていますよね。市民運動と議員の関係というか、議員の役割について、どんな風にお考えですか。

次田：私は市民運動をずっとやってきましたが、市民派議員っていう言い方はよく分からないんですよ。私がこだわっているのは、教育であり、人権という事です。

市民が議員に対して何を望んでいるかということも、私の中に議員という仕事の位置づけも、多分変化していくと思うんですけど、現時点では、まず情報をきちっと公開する事。それは大前提ですよ。その上で、議員は自分が権力を持っているという事を認識して行かなくてはならないと思います。

今議員になって3年半ですが、1年目、2年目、3年目と行政の対応が大きく変わるんですよ。一方で市民の側からは「議員やのに、何でこんな出来へんの」って言われる。結局、頼り甲斐があるかないか、その辺はすごくあると思うんですよ。それでまた、「私たちと同じスーパー行ってはるわ」「特売場行ってはるわ」って。

当たり前前の生活の中から議員になっているという事を、私は持っていたい。議員は誰でもなれるし、やれば出来る。素人のままで、でも何も知らないまま行政からごまかされる議員では、やっぱりいけないんです。その辺は難しい。

実際、行政の対応は3年目位からホントに変わって来るんですよ。私、やっぱり職員の人ってかわいそうやなと思うときあるんです。同じ事言っても、議員が言えば実際の話変わってくる。受けた側の職員さんは、相手は権力があるって事で、折れざるをえないんです。ホントの自分の思いを語らないまま聞かなければならない。逆にそれは私にとっても良くない事だと思っているんですけどね。権力を感じて、権力を持った喜びに走っていくのか、それを自覚化しながらいくのか。大変な事だと思います。

議員って、何もしなくてもいいんです。ドアも開けなくていいし、エレベーターのボタンも押さなくて良い。みんな職員の人やってくれて、研修いったら、切符一枚買わなくていい。しかも、全部グリーン車でしょう。それが当たり前で、ちょっとランクが落ちたらプーブー言う人がやっぱり多いわけですよ。権力に付随して付いてくるものに、みんなが

甘えてしまう。その危険ってのは誰だってある。私だってそうなる部分もあって、家にかえって厳しくおこられる。

本並：おこられる？

次田：おこられますね……（笑）

「家」というか、市民グループは厳しいんです。市民とは何や、議員とは何やみたいな話になると、結構厳しい意見が出ますね。そうした事は、結局市民の側の力の具合にもよると思うんですよ。

それから、議員っていうのは出来るだけ多くの人、いろんな人が出て来るのがいいと思ってるんです。政治はホントは面白いものですよ。今はそうじゃないけれど、そうでなかったら水が腐るのと同じようなものと違いますか。あのね、うちも今度若い人が出るんです。26歳なんですけど。それから女性ももっと出て来たらいいし、学生も出て来たらいい。議員の仕事というのは、議員自身の政策の立案ということももちろんあるんですけど、チェック機能って、すごく大事な仕事だと思うんです。チェックするという事は、行政はチェックされるわけですからそのことを考慮して議案を出してくるわけです。それはある意味で提案と同じなんです。そう考えるという事は、議員というものの窓口を広げていくという事やと思うんです。そして、どんどん出たらいい。

本並：議会の中の改革とか、そういう事で考えておられる事はありますか。

次田：考えています。市民の人がどういう風に同調してくれるか難しいんですけども、議会改革なくしてはやっぱりダメで、自分はそれをやろうと思ってるんです。

議会のあり方で、よく、人を、議員定数を減らしましょうってあるんですけど、先ほど言いましたように、私はあれは全然反対なんです。そうではなくて、内容をいかにして高めていくか。



今の議会のシステムっていうのは、行政に取り込まれたシステムっていうのがすごく多い。事務局もそうなんですけれども、職員が来てるわけですよ。資料も少ない。もうほとんど自分で買ってますよね。調査研究費はうちなんか年間14万円ですよ。月1万何千円か。本買ったら終わり。電話とかFAXとか印刷物とか、ちゃんと備わってなかったら、議員活動って実際出来ないんです。最低限そういう事に使えるお金はやっぱり欲しい。逆に、交際費とか特権的な議長職のお飾りみたいなものがあったりもしょうがないですよ。この京田辺市ではおおよそ議長で300万円、市長も400万円ぐらい。とんでもなく多いんです。結局、お葬式なんかの香典代とかですが、これをやめたら選挙で評判悪くなるからやめない。香典代って、しかも人によって命の値段が違うんですよ。返ってくる香典返してあるでしょう、私が議会で追求するまで全部行方不明だった。金権選挙、これはもう選挙違反ですよ。こんなものはやめなけりゃ。

そういうものも含めてしっかりチェックしていこうと思ったら、必要なお金は出す。議員の研修とか、ホントは市民の権利なんですよ。市民の権利として、しっかり議員に勉強させるってぐらいに欲しいんですよ。

議員って面白いですよ。あのね、質問されないんです。全然。議員が的外れな事聞いても、間違った事言っても、行政の人がそれに気づいても、質問できないんです。で、議員同士も質問し合わないんです。だから楽なんです。聞かれたらどうしようかなと思って勉強するじゃないですか。請願を出すときなんか、何を聞かれてもいいように必死で勉強するでしょう。でも、聞かない、質問しない。ホントは、議会って討論、ディスカッションする場なのに。京田辺市なんか、議会報の報告なんか全部事務局が書くんです。本来は議員が自分で質問、報告を書いてやるべきなん

です。そうしたらいやでも変わらざるをえない。私は人権って事でずっとやってきてるんですけど、部落問題にしろ、在日朝鮮人の問題、それから最近では府営団地の中国の人たちの問題といった人権問題は、ここが変わらなければ議会の中に入っていけない。

本並：中国の方たちというのは京田辺市に沢山いらっしゃるのですか。

次田：いえ、中国から返ってこられた方、その家族の受け入れ先として、京都府の中に何箇所か、宇治市、向日市、京田辺市とかに府営の団地があるんですよ。私は、この方たちと週一回日本語教室をやっているんです。むこうは結局60、70歳の方が来るわけだから、その年齢から言葉を習うってすごく大変です。幼稚園や学校にしている孫たちの活躍はすさまじいですけどね。まわりの受け入れは、残念ながらあまり暖かくないって感じます。

例えばヨーロッパの人なら、イーデス・ハンソンさんが粗大ゴミを集めて綺麗にリサイクルしてられるのをテレビで取り上げればみんなワー！っていうのに、同じ事を中国の人たちがすると「中国の人たちがゴミあさってはる」と、こうなんですよ。

中では楽しいですよ。餃子教室したりとかね。でも、すごく気を使って生活してますよね。そんな、次の世代からはないようにしてもらいたい。

そうしたことを変えていくためにも、議会改革っていうのは、こう自分たちの市だけの議員のつながりではダメですね。いろんな所で、いろんな議員と、もっと大きく考えていくシステムに変えていかないとダメだと思います。

本並：今日は本当にどうも有り難うございました。

岩崎駿介 応援ソング とてもすてきな歌ができました。

立ち上がろう、地球が青いうちに！ 作詞作曲 菅原和之（ニョキ）

憂鬱な昨日にサヨナラ 新しい朝が来る

ガレキ色した街の中が だんだん明るくなる

時代の扉を開いて 変化が芽を出すときだ

怯えたような人の群れが 生氣をとりもどしてく

声なき声たちが 絆をむすぶ

押しつぶされた人らが 絆をむすぶ

Tomorrow 地球が青いうちに

Tomorrow 地球が青いうちに

Tomorrow 立ち上がろう

Tomorrow 立ち上がろう

Tomorrow 女たち子どもたち

Tomorrow 女たち子どもたち

翔べ！明日に向かって！！

翔べ！明日に向かって！！

★このほど出された厚生白書は、女性の視点から、現在の社会を捉えていた。家庭内での役割分担や決定権など男女の格差はほぼなくなっているという当然のことに、真っ正面から光を当てていて、新鮮な気がした。ところが、同時期に東京都教育委員会は、管理職の管理強化を押し進め、学校という職場から民主主義を奪い、管理職の言うことを黙って聞く、まるで操り人形のような教員集団を作っている。今まで少しずつ勝ち取ってきた権利や自由などが巧妙に削られ、気がついたときには身動きできなくなっているような恐ろしい未来が見えかかっている。

ワールドカップにナショナリズムをまる出しにして大騒ぎしているうちに、大事なこと（参議院選挙のこと）を置き忘れていたのでは？

世界の経済が混乱し始め、今までの価値観が大きく変わっていき、戦争の足音も微かだが、響きだしたような気がする。

今、ストップしないと手遅れになってしまう。子どもたちの未来を黙ったまま悪くしていくことだけは避けなければ。(ち)

私たちは、現在のモノ中心の社会を、人間が人間らしく生きることのできる社会へとつくり変えていくことをめざします。

人間らしい社会一人と人が平等に、ともに助け合って、人間が自然の一部としての本来の姿で生きることのできる社会—を実現することこそが、人々の希望です。私たちはそのために、あらゆる領域で民主主義を徹底し、民主主義の実現をはばむものに対してたたかいます。

私たちは、世界に戦争と大国主義の不平等をもたらす憲法改悪を許しません。9条の理念の実態を日本から作っていくことによって世界の平和と民主主義の実現に貢献していきます。国と国とは対等平等の関係にあり、人間らしく生きることの豊かさの尺度に、人々の在り方を人々が決め、どこの誰も本当に武力を必要としない国際社会の実現こそが、平和の実現です。

私たちは、地域から国の進路、世界の在り方を決定する政治的な力をつくっていきます。そのために、私たちの意志、知恵や力を結集し、互いの経験に学び合い、信頼を築き合いながら、自治の実現をめざします。何かに頼ることなく、広範な人々とともに、変革の力をつくり、その統一を推進することを自らの役割とします。

世界の現実を変えること—それは私たち自身の在り方、運動の在り方を変えることなくしては実現できません。私たちは自らを変え、人と人との関係を変えあうなかで、現実を変革していきます。本音を出し合い、あらゆる困難をともに克服し、成功や喜びを、そして失敗や悲しみをも共有し、助け合ってたたかいの輪を広げ、その中に新しい社会を準備していきます。

人間らしい社会の実現をめざし、世界の平和と民主主義を求める人々とともに、希望の実現に向けて進みます。

1部200円 定期購読をよろしくお願いします！年間購読料3000円（送料込み）
郵便振替：00100-1-97125『希望の21世紀』

月刊『希望の21世紀』●33号●1998年6月25日
発行●「希望の21世紀」全国委員会
編集●希望21三多摩印刷●Jam Print
連絡先●希望21・三多摩

東京都日野市多摩平6-20公住219-5 三浦方
TEL&FAX 0425-82-2407

●希望21・京都
京都市伏見区石田西ノ坪1番地 醍醐石田団地1号棟417号室 吉田方
TEL&FAX 075-572-4445

●希望21・未来はみんなで作くり隊
東京都杉並区高円寺南2-39-15 光荘203 菅原方
TEL&FAX 03-3314-1505

●希望・大阪
大阪府門真市北巢本町17-7安井文化202 戸田方
TEL&FAX 0720-85-6491

